

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO.115

令和6年(2024年)

速報！ 令和6年度(2024)
日本庭園学会全国大会 開催情報

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園技法材料科学研究室
TEI(03)-5477-2428(栗野 隆 理事)
<http://www.jgarden1992.jp/index.html>

大会テーマ 「文化財庭園の整備・再整備」

1. 全国大会概要

- ◆日程 令和6(2024)年6月1・2日(土・日)
- ◆会場 岩手県平泉町
*詳細確定次第、学会HP、学会ニュースでお知らせします。

【6月1日(土)】

- 10時～16時 現地検討会(毛越寺庭園等)
- 16時～17時 平泉町担当者の補足説明及び見学者からの質疑応答
- 18時～20時 情報交換会(ホテル武蔵坊(予定))

【6月2日(日)】

- 09時～12時 公開シンポジウム
「文化財庭園の整備・再整備」
- 12時～13時 理事会
- 13時～14時 総会、日本庭園学会授賞式・学会賞受賞者講演
- 14時～17時 研究発表会(各20分で最大9名)

2. 大会趣旨

テーマ:「文化財庭園の整備・再整備」

近年、かつて保存整備された文化財庭園の再整備が各所で行われています。今回会場となる平泉町では、毛越寺庭園の再整備が進行しています。このような再整備がなぜ必要なのか、どのような方針に基づいて実施しているのか、いくつかの事例に基づいて考察します。

また、最近行っている文化財庭園の保存整備事業に関して、整備に対する考え方、名勝との関係について等、いくつかの事例をもとに考察します。

3. 研究発表の募集について

- ◆申込み方法
令和6年度(2024)全国大会におきまして、研究発表を募集します。会員のみならず、おかれましては、ふるってご応募ください。

発表申込み期限:令和6(2024)年2月29日(木)

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ、下記の「発表申込先」までお送りください。Eメールでお申し込みをお願いします。

※今大会は、スケジュールの都合上、**最大9件のみの発表**となります。公平を期すため、**申込者先着順**とします。

発表申込先:t3awano@nodai.ac.jp
栗野隆(全国大会運営委員)

※申し込みのメールが迷惑フォルダに格納され、メール受信の確認が遅くなる場合がありますので、申し込み後、5日間を経ても申し込み確認の連絡がない場合は、次ページに掲載の問い合わせ先(栗野隆 携帯電話)までお問い合わせください。



Nam2@7676 on Visualhunt

◆執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布します。原稿はそのまま要旨集の版下とします。学会のHPからWordの書式見本をダウンロードし、作成をお願いします。分量は、A4判で2ページもしくは4ページ、6ページ、8ページとします（奇数ページでの原稿は、受け付けませんのでご注意ください）。**提出に際しては、WordファイルとPDFファイルの両方をご提出ください。**

なお、学会HPから書式見本がダウンロードできない方は、栗野隆までメールにてお問い合わせください。

発表要旨提出期限：令和6(2024)年4月26日(金)
(本文版下原稿のメール提出期限)

◆問い合わせ先

全国大会の内容に関する問い合わせ先

担当：大澤伸啓（日本庭園学会 会長）
nobuosawa2003@yahoo.co.jp

**研究発表に関する問い合わせ先及び
研究発表の申込先**

担当：栗野隆（全国大会運営委員）
t3awano@nodai.ac.jp
電話：090-6209-1868 / 03-5477-2428

小田原城御用米曲輪検出遺構、発掘現場特別視察会 及び検討会の概要

現在、小田原城では、御用米曲輪（江戸時代に米を収納した蔵があった曲輪）の発掘調査並びに保存整備事業が行われています。以前の発掘調査では、下層から戦国時代の石敷など庭園遺構が確認されており、今回もそれに関連する遺構の検出が期待されていました。今年度、現在までの発掘調査の結果、戦国期庭園に関連する石列を伴う溝状遺構が確認されているほか、周囲に建物跡や井戸跡が存在したと想定されています。

このようなことから、小田原市教育委員会の全面的な協力のもと関係者向けに特別現場説明会が開催されることになりました。本学会では、これにあわせて御用米曲輪検出庭園遺構の検討会を下記により開催いたします。現場視察、その後の検討会の場、情報交換の場（交流会）を設ける予定ですので、多くの皆さまの参加をお待ちしています。

開催概要及び申込方法

- ◆日 時：令和6年2月15日（木）
13:30 小田原駅小田原城口集合
14:00～16:00 発掘現場特別視察
16:00～17:30 御用米曲輪検出戦国期庭園
検討会
(小田原市民活動センター)
- ◆参加費：会員無料
学会員以外（検討会のみ）500円
- ◆交流会：小田原駅周辺にて18:00頃より開始。
2時間程度を予定。交流会参加費は
5,000円程度
- ◆申込期限：令和6年2月10日（土）締切
- ◆申込方法：参加希望者は①～④の必要事項を
明記の上、日本庭園学会事務局まで
メールにて申込みください。グループ
での参加・申込みも可能です。

- ①参加者氏名（全員分）
- ②代表者連絡先として、メールアドレス及び当日
連絡可能な携帯番号
- ③参加者会員種別、学会員及び学会員以外の各人数
- ④交流会参加者全員の氏名
- ◆申込先：日本庭園学会事務局
teiengakkai@gmail.com
- ◆交 通：J R又は小田急線小田原駅まで
各自でお越しください



(写真)
小田原城御用米曲輪
発掘状況

日本庭園学会オンラインセミナー 2024 開催のお知らせ

開催趣旨

日本庭園学会は、日本庭園を多方面から総合的に研究・討議するとともに、日本庭園を軸として日本文化について考究することを趣旨としています。本学会では、日本庭園の研究を造園の専門分野のみからアプローチするのは不十分であると考えます。建築学・考古学の分野はもとより、生活文化としての茶道・華道、あるいは精神文化としての哲学・宗教、特に仏教文化の分野、さらに美術・工芸、絵画等々、そして庭づくりの現場の声等、多方面から行われてこそ、はじめてその完きを得るものと考えます。そのため、2021年から開始した本オンラインセミナーは、多彩な分野の先生に御講演をいただき、日本庭園学の深淵に触れる企画としています。

本セミナーは学会主催ですが、会員のみならず広く一般の方に向けて、様々な実践智（現場の肉声）と思考智（研究の成果）をわかりやすく話題提供し、日本庭園学のこれまでとこれからを展望していく内容です。今年度のテーマは、「文化財としての庭」です。これまでどおり Zoom 利用による事前登録制にて、毎回どなたでも、世界中のどこからでも、視聴・参加可能な企画とします。皆様のご参加をお待ちしています。

開催期間・日時

4月15日（月）～5月27日（月）毎月曜日の18:00～19:30に開催します。但し、4月29日（月）は休日のため、4月30日（火）に実施します。また、5月6日（月）は開催しません。

講演内容（全6回）

4月15日（月）

青木 達司氏（文化庁）

日本における文化財庭園の状況

「文化財保護法」により指定されている国の名勝庭園について、歴史と現況について概説し、その保存と継承に関わる諸課題などについて触れる。

4月22日（月）

吉村 龍二氏（（株）環境事業計画研究所）

文化財庭園の保存・活用計画

国指定名勝や史跡の保存と活用に関して、必要な計画立案の要点と課題について、これまで報告者が関わった具体的な事例に基づき概説する。

4月30日（火）

正田 実知彦氏（福岡県）

福岡県における名勝庭園の保存活用

福岡県には8件の国指定名勝が存在する。その内、7件は庭園である。2017年、国指定名勝庭園を有する6市町（飯塚市・柳川市・みやま市・添田町・川崎町・築上町）による福岡県市町村名勝庭園協議会が発足した。同協議会では、

これまで、庭園紹介冊子の刊行、パネル展示、庭園ゼミなどを実施し、名勝庭園の保存管理に関する知識や技術の向上を図るとともに、名勝庭園の価値を広く発信してきた。福岡県における名勝庭園の価値と保存管理のあり方、そして同協議会の活動を中心とした庭園の活用事例について報告する。

5月13日（月）

山田 拓広氏（花豊造園（株））

文化財庭園の管理と活用一実務の立場から

国指定名勝庭園の維持管理を担う管理者の立場から、文化財庭園の保存・管理と活用の現状について、報告者が関わる具体的な庭園事例をあげながら概説する。

5月20日（月）

イトウ マサトシ氏（「おにわさん」編集者）

文化財庭園の知名度と課題一愛好しめぐる立場から

2020年、国指定名勝庭園「藤江氏魚楽園」「時国氏庭園」の閉園。青森県指定名勝「清藤家庭園」の指定解除と解体消失。2023年、国指定名勝庭園「上時国氏庭園」の閉園。ごく一部の有名庭園を除いて集客に苦戦する「庭園」。人口減少の加速する日本の地方で文化財庭園の存在感を残すためには何が必要か。庭を愛好し全国をめぐる中で見えてきた課題について紹介する。

5月27日（月）

前川 佳代氏

（奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学 研究センター）

池庭造営の系譜—京都・平泉・鎌倉・水無瀬

報告者は、平泉の庭園の源流を京都や奈良に求めてきたが、具体的な造営者はわからなかった。奥州へ侵攻した源頼朝は、平泉の堂舎を意識して永福寺を建立する。その池の造営者は明らかで、池の形と造営技術の系統から、永福寺以前の平泉毛越寺庭園や永福寺以後の水無瀬や大慈寺庭園の形と造営者について考えるところを述べたい。

セミナーの参加方法

参加費：無料

定員：300名（非会員も参加可能）

登録：必要。初めに登録し、Zoomリンクを入手すれば全てのセミナーが視聴可能。事前登録は下記URLの申込フォームから申込情報を入力してください。QRコードからもアクセス可能です。

<https://forms.gle/aEhdqHG1fMeeK1687>

その他：事前登録者のうち、学会員に限定して後日に見逃し配信を実施（YouTube利用、半年程度）します。この機会に学会入会のご検討をお願いいたします。

申込用QRコード→



史跡 真壁城跡中城庭園の発掘現場視察会 レポート

Rejoice 株式会社 花野美和子

令和5(2023)年12月7日、史跡真壁城跡中城庭園の発掘現場視察会が開催されました。当日は、穏やかな小春日和に恵まれ、筑波山の美しい紅葉が印象的でした。視察会は、桜川市教育委員会文化財課のご案内により、現在真壁第一体育館となっている本丸部分を出発し、二の丸を経て、中城庭園へ進みました。

国指定史跡真壁城跡は、平成6年10月28日に国の指定を受け、12万5千㎡(史跡面積全体)に及ぶ城跡です。本丸部分面積は15,622㎡、形状は本丸を中心とした二の丸、中城、外曲輪、館、北戸張ほか堀と平場で構成されおり、本丸の西方向、真壁の街にも曲輪のある城下町と一体化した構造です。真壁城跡の年代は、15世紀第2四半期頃に成立し、真壁氏が秋田へ移転した1602年頃までと推定されています。筑波山系から西へ伸びる尾根上の微高地を利用して作られた周囲を低湿地に囲まれた平城で、茨城県西部、筑波山北麓の桜川市真壁町古城に位置する戦国期の城郭です。

史跡真壁城跡中城庭園は、真壁城内部の中城地区から出土した庭園遺構であり真壁城内の曲輪の中で最も防御構造が発達した姿をみることができる城郭庭園です。久幹から氏幹への代替わりの際、中城庭園の造り変えが行われ、北池の形が大幅に改造されました。土器や青磁、染付の破片が2つの池底から出土したことは、北池の改変をたどるうえで重要な発見となっています。

庭園内の導水は、雨水のみで、池への水流は東の土塁斜面から土塁内側の排水溝を通して雨水を集める構造になっていました。排水溝は規模が小さく浅く、排水量が少ない穏やかな流れで、溢れた池の水を少しずつ北方面へ排水する

ようになっています。南池に面した主殿を含む大型建物群は、東側の天目山を向いており、天目山の麓には、鎌倉時代に創建されたお寺(臨濟宗、遣隋使派遣に関わる主要なお寺)があります。天目山に昇る月、南池の水面に映る月、中城庭園の茶室から眺める当時の景色が話題となりました。

現場視察の後、真壁伝承館で行われた討論会では、様々な観点から以下のような議論がなされました。

- 当時の人達の水処理について。
- 交通の要所である立地に真壁城が創建され、時代を追いながら1600年には庭園まで作庭されたその流れをどう表現してゆくのか、どう伝えてゆくのか。
- 庭園内の水の流れに焦点をあてた復元が実現したら面白い遺跡になるのではないか。
- 庭園内の北池と南池の関係、北と南にかけての役割の設定、庭、能舞台、池の形状、庭園と山との関係、建物、園池が望む景色や南池に映る月、建物や地面の高さや方角、南池に面した大型建物群の間取りの具現化。早めその景色の視覚化を行う。
- 東側の天目山周辺に建造物(風力発電機材等)がみられるが、太古から続く山の景観の保全に務めることが賢明となること。
- 庭園の構成として南池と建物群が中心的事であること。
- 北池、南池の用途は、北は方位的にも水を処理するための池であり、北が低く大きく設定されていること。
- 混ぜ物をした土で、植材や砂利もない水の処理だけを、土地の高低差で水の流れが表現された庭であること。

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：森本・細井(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会 広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342